

教室だより

佐渡市立金井小学校
佐渡ことば・こころの教室
平成27年12月18日
第818号

〒952-1209 佐渡市千種丙 178 番地 1
Tel : 0259 (63) 4156 (直) 4115 (代) Fax : 4117
<http://kanai-es.sado.ed.jp/> E-mail : skotoba@sado.ed.jp



風邪予防の情報番組を聴いていた時のことです。うがいや手洗いといった一般的な風邪予防の方法を紹介した後で、講師のお医者様が「この冬は、これに笑顔を付け加えてくださいね。」と話しました。笑顔は身体に様々な良い効果をもたらすと各方面で言われていることを思い出しました。笑顔を忘れず日々を過ごしたいです。

気持ちのなまえ

佐渡総合病院小児科
岡崎 実

診察をこわがって小さな子どもが泣いているとき、私たちはつい「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と言いながらもさめていきます。よかれと思ってやっていることですが、大泣きしている赤ちゃんからすると、身の置き場がないほど苦しい今の状態が「だいじょうぶ」というなまえなのかと間違った学習をしてしまうかも知れません。

私は、泣きたいときは泣いていいよという方針ですが、そのとき声をかけるとしたら「こわい、こわい」「おっかないね」と小さな声で言っています。もしも、子どもの心に学ぶゆとりがあれば、この気持ちのなまえが伝わったらいいかと期待しています。子どもが自分で耐えられないほど不安な気持ちに「こわい」という名前をつけて、それを信頼している人に「そう、こわいのね」とわかってもらえたらどうでしょう。きっと、不安は半分くらいになってパニックをのり越え、一緒に笑顔を交わせるのではないのでしょうか。

研修会の報告

佐渡ことば・こころの教室には、軽度から重度の難聴の幼児・児童・生徒が通ってきています。その障がいの幅や年齢が広がってきたことから、8月に北陸教育オーディオロジー研究会に参加し、北陸4県の聾学校の先生方や、難聴通級担当の先生方と一緒に学んできました。

そこでは、補聴器・人工内耳メーカーによる情報提供、耳鼻咽喉科医師や、大学の講師らによる講座や講演、各県の聾学校の先生方による素晴らしい実践発表がありました。盛りだくさんの内容で、有意義な2日間でした。

補聴器メーカーによる情報提供で初めて知ったことは、「ロジャーペン」です。ロジャーとは、2.4 GHz帯のデジタル無線方式のことで、ペンタイプのマイクがロジャーペンです。

従来のFM補聴システムのような使い方もできますが、騒がしい教室環境でも離れた場所にいる人にペン型のマイクを向けると、その人の声をワイヤレスで届けることができます。そのクリアな音には驚きました。

聴覚保障は難聴者の権利です。より良い機器が普及し、難聴者の学習環境が少しでも良くなることを願っています。(佐藤)



第2回学習会の案内

第2回学習会を下記の通り計画しました。多数の御参加をお待ちしております。



○日時と会場 平成28年1月30日(土) 13:00~15:30 【会場:金井小学校】

○内容

☆講演会 13:00~14:50

《講師》能登 宏 様(新潟大学 学生支援センター障がい学生支援部門・特別修学サポートルーム 特任准教授)

《演題》「学ぶ意欲を支える～小中学校教育につながる新潟大学における障がい学生支援～」

◇ミュージックケア(保育希望のお子さん) 13:00~14:50

《講師》加瀬 夏枝 様(日本ミュージックケア協会認定指導者 新星学園寮長)

☆保護者懇談会(希望者) 15:00~15:30

参加御希望の方は、佐渡ことば・こころの教室までお問い合わせください。
【担当:金子・滝田・菊池】

会員の声 No.65

支援は甘えでしょうか？

A・T (真野地区)

中学1年の息子は、特別支援学級に在籍し、可能な限り通常学級に参加する交流学級のスタイルで学校生活を送っています。発達障がいは、外見からは分かりづらく、誤解され易いということは周知のことだと思います。特別支援学級に在籍しているのは、障がいをオープンにして適切な支援を受けたいと思ったからです。また、交流に参加するのは、支援を受けながらも一般社会に参加したい、そしてそれは当たり前の権利だと思うからです。

どっち付かずで、嫌なことがあるとすぐ逃げる。そのように誤解されるとき、心を痛めることがあります。皆と同じように、彼らも悩み、頑張っているのです。